

**テーマ：**中国の環境問題について考える

**関連の深いコース：**人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

### 1. このテーマを学ぶために

1978年に「改革開放政策」が打ち出されて以来、中国の経済は目覚ましく発展してきました。一方、その急速な発展によって、水不足やエネルギー不足が深刻化し、PM2.5に代表される大気汚染など環境問題も発生しています。

「南水北調」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？それは、長江の水を中国北部に運ぶという遠大な計画をあらわす言葉です。「調」には「動かす、調達する」という意味があります。水資源が豊富な中国南部から水不足に悩む中国北部に水を運ぶ大プロジェクトをさす言葉です。この「南水北調」は三つのルートが計画されています。そのうち、江蘇省の長江下流と天津などを繋ぐ東ルートは2002年に着工され、13年末に1期工事が完成して送水が始まりました。この東ルートは他の二つに比べて技術的には容易なようですが、オープンな形で人口密集地を通すため水質の悪化が懸念されており、専門家の一部からは「汚水北調」になる危険性が指摘されています。長江の支流である漢江と北京・天津を繋ぐ中央ルートは03年に着工され、14年の末に送水が始まりました。送水の実施により、漢江の水量は中下流域で四分の一ほど減るという試算がなされており、水質の悪化や魚の産卵場所が失われるといった生態系への影響を懸念する声が専門家から出されています。

水や大気汚染、北京近郊まで押し寄せている砂漠化、有害廃棄物の越境移動、不法リサイクルなどなど、中国の具体的な環境問題を検討するには中国語で書かれた事例を中国語の原文で読む必要があるでしょう。

長い歴史をもつ中国の社会は複雑です。中国の環境問題に関しては、技術的側面や政策的側面からの研究だけではなく、人々の意識や文化、歴史的な側面から考察してゆく必要もあります。『論語』『孟子』『荀子』『老子』『荘子』『韓非子』『史記』『漢書』『三国志』といった中国の古典を読むことはその一助になるはずですが、「環境」という観点から中国の古典を読み解く試みも近年なされています。

基礎科目の外国語として、必修中国語1～3、中国語4（重点）が用意してあります。4群の選択中国語にはコミュニケーションや視聴覚等に特化した科目も用意してあります。夏休み、春休みに企画される一か月程度の「中国短期留学」に参加することもよいでしょう。また、協定校へ1年間留学することが出来る「法政大学派遣留学生制度」もあります。中国（上海外国語大学・中央民族大学・首都師範大学）と台湾（国立中山大学、淡江大学、国立政治大学、元智大学、国立台湾師範大学）に関してそれぞれ毎年2名ずつ、計16名程度の枠があります。6ヶ月の留学の枠も近年出来ました。それらに挑戦することも考えてみてください。

なお、「中国の現地で地球環境問題を学ぶ」フィールドスタディが企画された場合は、参加することをお勧めします。中国の水不足、砂漠化の実態を知る貴重な体験になることでしょう。深刻化する中国の都市と農村の格差の問題を考える手がかりにもなると思います。

### 2. テーマに関連した推奨科目

〔基礎科目〕

必修中国語1～3、中国語4（重点）、中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、中国語表現法Ⅰ・Ⅱ、中国語視聴覚Ⅰ・Ⅱ、検定中国語Ⅰ・Ⅱ、外国文学A・B（中国古典に親しむ）、外国文学A・B（日中比較）、外国文学と文化LC・LD（漢詩を作る）、東洋史Ⅰ・Ⅱ

〔専門科目〕

国際法Ⅰ・Ⅱ、環境法Ⅰ～Ⅳ、途上国経済論Ⅰ・Ⅱ、国際経済協力論Ⅰ・Ⅱ、環境倫理学、環境表象論Ⅰ・Ⅱ、環境哲学基礎論、自然環境論Ⅰ～Ⅲ、環境科学Ⅰ～Ⅲ、自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ、大気と社会Ⅰ・Ⅱ、食と農の環境学Ⅰ～Ⅲ